

高齢地域住民に対する ポリファーマシーのスクリーニング方法の検討

間瀬 広樹 ● 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 副薬剤部長



主な研究者とのWEB会議

1. 背景と目的

高齢者のポリファーマシーの問題

多剤併用（以下、ポリファーマシー）は単に剤数の問題でなく、あらゆる薬剤の不適切な問題とされる。その中で、潜在的に不適切な薬物や服用剤数として6剤以上になると薬物有害事象が有意に増加することが報告され、服用剤数減少は薬物療法の適正化には重要な因子の一つである。服用剤数が多いことは複数の症状を持っている可能性があり、服用剤数が多い患者より減薬の希望を聞くことが多い。また、ポリファーマシーは「ふらつき」「物忘れ」といった薬剤起因性老年症候群を引き起こしている可能性もある。

服用剤数などから患者の減薬希望、老年症候群と多剤併用を検討した報告は限定的である。また、保険薬局は患者の背景を考慮できる地域に根差した医療機関であるが、保険薬局で処方スクリーニングし、処方や服薬方法に介入が必要かどうかを医師や病院薬剤師等と検討する情報を収集するスクリーニングシートがないのが現状である。

そのため、保険薬剤師が服用剤数、減薬希望、老年症候群の症状などの状況を調査

し、薬剤交付窓口で患者に負担のかからない短時間で、誰でも一定の基準で簡便にポリファーマシー状態をスクリーニングすることが求められる。

今回、スクリーニングシートの作成及び保険薬剤師が疑義照会、トレーシングレポートなどを用いて医師や病院薬剤師等にポリファーマシーに起因する処方提案（減薬など）や服薬管理方法変更（一包化など）が行えるような一連の提案方法を、薬局と共同で探索し確立することを目的とする研究を計画した。

2. 取り組みの方法

処方剤数、服用回数、新規薬剤追加、服薬管理方法、転倒歴、老年症候群等を聞き取るスクリーニングシートの作成を行う。院外処方箋により調剤を行う75歳以上の患者に対してスクリーニングシートによる聞き取りを行った結果、処方提案等につなげることができる因子を探索的に検討する前向き横断観察研究を行う予定である。

3. 期待される成果

ポリファーマシー状態に関連する因子、老年症候群との関連性を得ることができれば、スクリーニングシートの改訂を行う。スクリーニングシートが作成できれば、トレーシングレポートなどを用いた処方提案等の充実により不適切な薬物治療へのアプローチの充実につながる可能性がある。